

特250

366

542

686

昭和十年編  
 應田村年報  
 應田村年報



始



長崎縣壹岐郡田村役場



昭和九年報を送る一言世永

昨年からの試みとして第二回目の年報を御膝元に御送り致します。本年こそは右位の御期待に背かざる様にと少々編輯の型を変へて新味的のもを心にと置きひ思索を凝して見ましたが、田舎に躊躇しておるお互ひ同志では万が一も出来ません。従つて昨年の式を踏襲して杜撰極まる田舎臭其儘のものが出来ました。併しそれが却つて白砂糖の精味よりも黒砂糖その儘の苦味が親せられる様に故郷の情緒を偲ぶには寧ろ良くはないかとも思はれます。脈々と流れる皆様の暖き血も祖先墳墓の靈地より生を受けたることを想起下さいまして幼少頃と△△の時代とを比較して村の實質態及行跡を眺めて時には鞭打ち時には援助して「永久石田」の爲めに可愛つてやつて下さい。

昭和十年六月

石田村役場

目次

|            |     |                 |     |
|------------|-----|-----------------|-----|
| △地勢        | 頁一  | △社寺             | 頁二  |
| △沿革        | 頁一  | ◎神社修徳會ノ活動       | 頁二  |
| △庶務        | 頁二  | ◎寺院日曜學校ノ開設      | 頁三  |
| 一人口        | 頁二  | △衛生             | 頁三  |
| 二財政        | 頁三  | ◎昭和九年現在在者病類年數別調 | 頁四  |
| 三土地        | 頁六  | ◎全死亡者調          | 頁五  |
| 四土木        | 頁七  | △消防組            | 頁八  |
| 五吏員        | 頁八  | ◎行事             | 頁九  |
| 六救護        | 頁八  | ◎カソリン唧筒購入       | 頁三〇 |
| 七恩賜醫療救護    | 頁九  | △勸業             | 頁三〇 |
| 八議會        | 頁九  | ◎農業             | 頁三〇 |
| 九基本財産ノ消長   | 頁九  | ◎漁業             | 頁三二 |
| △稅務        | 頁一〇 | △經濟更生           | 頁三三 |
| △戸籍        | 頁一五 | ◎部落振興競勵會        | 頁三四 |
| △兵事        | 頁一七 | ◎部落常任會          | 頁三五 |
| ◎簡閱點呼ノ状況   | 頁一八 | ◎全村教育           | 頁三七 |
| ◎在郷軍人ノ活動促進 | 頁一九 | ◎講中組ノ活動         | 頁三八 |

- △農會 三九
- △漁業團體 四一
- ◎漁業組合 四一
- ◎農事實行組合 四一
- ◎青年會日 四二
- ◎主婦會日 四二
- ◎唐津壹岐運輸株式會社 四二
- ◎田子青年團 四三
- ◎女子青年團 四四
- △其他、摘錄 四五
- ◎指導關係者研究會 四五
- ◎皇太子殿下御降誕記念事業 四五
- ◎皇太子殿下御降誕奉祝大會 四六
- ◎雨乞祈願 四六
- ◎全村學校體育大會 四七
- ◎山内庄三郎氏、歡迎會 四八
- ◎故比川與二右門翁村葬 四八

- ◎農繁期託児所、開設 四九
- △學校教育 五〇
- ◎見立里生徒、増加狀況 五一
- ◎職員、現狀 五一
- ◎小學校卒業生狀況調 五一
- ◎學校御守贈芳名 五二
- ◎柏木校長委任披露祝賀 五三
- ◎補習學校 五四
- △産業系組合 五五
- ◎貸借對照表 五五
- ◎信用部 五七
- ◎購買部 五七
- ◎販賣部 五七
- ◎利用部 五八
- ◎共同作業場、利用 五八
- ◎養蚕實行組合、活動 五八
- △昭和九年度、重要日誌 五九

△勢地沿革

本村は石田、池田、筒城の三大字よりなり、壹岐郡東南端に位して東南は日本海に臨み、西は志原村と北は旗針川を銜んで田河村と境を有する。廣さは〇ハニ五方里で東西凡そ二里、南北凡そ一里余りである。地形は大抵平坦であるが、筒城の方面が稍々高地が多い。地質は大部分粘質壤土で地味は中等である。交通は印通寺を中心として陸上は武生水町及芦辺に通ずる。縣道と山崎及筒城浜に通ずる村道があり、近年、故農土木事業で村内隈なく道路が整つて来た。海上は毎日印通寺港を起点に呼子唐津行の定期船があり、頻繁に出入りしてゐる。気候は温和で夏季は南風が多く、其他の季には北風が多い。降霜は十月上旬に始り三月上旬に終るのが例である。

△沿革

古来の歴史は判然としないが、第八十五代後堀河天皇の御代に武藤資頼が少貳の職に補されて、其の子孫本郡を統べり、其の政務を掌りつて、おつた。其後文永、弘安の役を経て、第百七代正親町天皇の御代に、其の肥前平戸の城主松浦隆信の領分となり、其の子孫が相續いて、明治維新に及んだのである。其後、唐津藩、若狭道縣が行はれて平戸縣の管轄に属し、明治五年

に長崎縣と改稱され、同年に區制の施行に依り、郡界を三大區に分轄さ  
 北區毎に總戸長(明治六年に區長と改稱ス)を置かれ、現在の石田、筒城は第  
 七十六大區に池田は第七十八區に属しておつた。明治十二年に町村制行政區  
 劃の改正で石田、筒城、池田の三村を合併して石田村外三村聯合戸長役場  
 を石田村に置かれたが更に明治二十二年町村制の實現に當り、前記三村  
 を以て本村を組織し現在に及んでおる。町村制實現以來の村長の氏名及  
 就職の年月日は左の通りである。

- 辻川興一右エ門 明治三十三年五月二十日就職
- 齊藤興一郎 明治三十九年七月九日就職
- 辻川興一右エ門 明治三十年五月十日就職
- 齊藤安之助 明治三十二年九月二日就職
- 辻川興一右エ門 大正十三年四月三日就職
- 田中 茂一 昭和三年三月六日就職
- 松永英太郎 昭和八年八月 日就職 現在に至る

△庶務

一戸口  
 本籍人口は男三二〇人 女三一四一人 計六二六一人

現住人口は 男三二一四人 女三二一六人 計四、四三〇人

現住戸数 八百十二戸トス

是れは前年のそれと比較するときには現住人口に於て六七人、戸数に於て二戸を  
 増加した。

二 財政

擔稅能力の豊かなる町村程 凡ゆる施設も文化の惠澤も恰く普遍せし  
 むることが出来るが、國家非常時が高調せらるゝ、現今に於ては、我村も去の  
 進むに従ひて人並の計畫施設はせねばならず、一面村民の担稅力が果し  
 てその要求に應じて行くだけの力があるや否は、さて置いて年々高調を行  
 く經費には村当局も村會議員も苦勞 慘憺たるもので毎年の予算  
 編成に於ては現下實相を直視して考案計畫を繞るのであるが昭和  
 九年度の財政の大観は左の通りである。

歳入  
 歳入総額 三万七千七百八十一円九十八銭  
 歳入の主なるものを擧ぐれば  
 財産を生ずる収入 一八三三円八八銭  
 國庫下渡金 七、〇〇六円五五銭

國庫補助金 三〇〇月 五四元  
 縣費補助金 二、四一五元。四角  
 寄附金 五三四元  
 繰越金 二、五〇八月一八元  
 雑收入 五六二元。五角  
 村税 一九、三一九月〇二角

内特別税戸数割が一、七三七元となり一戸平均が昨年(八年)と変わりなく一五、四七二元とあり、郡内でも中等位の負担をしておる

歳出 (經常部)

一 神社費 一八五元〇〇  
 二 會議費 三三四元〇〇  
 三 役場費 五四七元二角五分  
 四 土木費 三一〇元〇〇  
 五 小學校費 一五、八一五元二角  
 六 補習學校費 一七、六六六元  
 七 學事諸費 一五〇元〇〇

神饌幣帛料 一三〇月 供進金 六五元  
 費用弁償 三〇月 其他 二〇月  
 報酬給料 四〇月 雜給 一四、五五元二角五分  
 其他 一、一六元

給料 一三、三五六元 其他 二、五五二元六角九分  
 給料 一、二六〇元 其他 五〇月 六六元

負困児童就學獎勵費

八 傳染病豫防費 九三一〇元〇〇  
 九 隔離病舎費 九〇元〇〇  
 一〇 勸業諸費 一、一六六元〇〇  
 一一 地方改良費 一、三〇〇元〇〇  
 一二 救護費 五四八元二角五分  
 一三 敬言備費 九八元六角四分  
 一四 公會堂費 五六元五角四分  
 一五 其他 九三元五角八分

雜費 七三月 需用費 一、一九月 トラボール 七四三元  
 修繕費 其他、諸雜費  
 害虫駆除費 勸業技術員費  
 社會教育費 二五〇月 部落振興費 二五〇月 鋼  
 稅獎勵費 四五〇月 視察費 三三〇月 其他 三〇月  
 生活扶助費 四五六元二角五分 其他 九〇元二角五分  
 消防費 九六六元六角四分 其他 一五元五角五分  
 修繕費 其他  
 基本財産造成費 一五五元 三六元 積立金 六元 七三元  
 財産費 二〇月 諸稅 員担 三五元 二四元 統計費 六  
 一、二四元 圖書館費 二四元 交付金 一〇八元 四七元  
 雜支出 一四七元

豫備費

一六 豫備費 四〇〇元〇〇  
 計 三〇、二九六元六角八分

(臨時部)

一 神社費 二〇〇元〇〇  
 二 土木費 一〇〇元〇〇  
 三 傳染病豫防費 四四元〇〇  
 四 勸業諸費 六一元〇〇

供進費 二充ツ  
 道路橋梁費  
 雜給  
 獎勵費

五公債費 三、八六  
 六運用金補填費 八五四、二六  
 七訴訟費 五〇、〇〇  
 八補助費 一、二八〇、〇〇  
 九雑支出 二八二、五五  
 〇其他 一三七、六三  
 臨時部合計 三、四四五、六二  
 歳出入合計 三、三四五八、二五  
 三土地

本村土地、地目及反別ヲ示せば左の如し

| 地目 | 九年未現在  | 八年未現在  | 増     | 減    |
|----|--------|--------|-------|------|
| 田  | 二一、二一六 | 二一、一九〇 | 二六    |      |
| 畑  | 五七〇、二五 | 五七一、五〇 |       | 一、二五 |
| 宅地 | 九八、三九四 | 九八、一四  | 二四八年余 |      |
| 山林 | 一五五、六〇 | 一五五、三〇 | 三畝    |      |
| 原野 | 二六、〇三  | 二六、〇〇  | 三畝    |      |
| 池沼 | 七〇     | 七〇     |       |      |

田畑のみに限り本村民の所有に係る分と他所村民の所有する分とを比較し其の消長を示せば左の如し

| 地目 | 九年未現在  | 八年未現在  | 現存    |
|----|--------|--------|-------|
| 田  | 一八六、二七 | 一八六、六〇 | 二五、三三 |
| 畑  | 五四八、四八 | 一、七六   | 二〇、八  |

此表に示す如く田に於て五反八畝余、畑に於て九反六畝余が昭和九年中に他所村民の所有に歸しつゝ、あるは本村民の將來をトするに於て輕視すべからざる現存である、即ち本村民の經濟上の困難が如實に示されて居ると稱して良い

四土木

昭和七年以来政府の助成に依つて毎年工事を興へておる道路も丹精なる村民の總和の力に依つて大体の幹線丈は貫通されし皆其の四、五に浴してある、昭和九年度に出来上つた道路は左の通りである

|      |       |           |
|------|-------|-----------|
| 南 越  | 一六五間  | 工費 二、〇〇〇円 |
| 池田東越 | 五八二間  | 三、四四四円    |
| 池田仲越 | 九四四間  | 三、四四四円    |
| 池田仲越 | 二五七九間 | 三、四四四円    |

|      |      |      |
|------|------|------|
| 妻ヶ島  | 五七三間 | 三三一冊 |
| 山崎触  | 一一三間 | 二五四冊 |
| 池田西触 | 三一〇間 | 六五〇冊 |
| 尚城西触 | 九〇間  | 七七冊  |

五吏員

本村の吏員は何れも就職以来相當の歳月を経たものが大部分で、且つ村民の信頼く唯收入役吉永政雪氏が三月に家庭の都合で退職されただけである。現在の吏員

- |          |          |         |
|----------|----------|---------|
| 村長 松永英太郎 | 助役 久原政衛  | 收入役 無員  |
| 書記 山川篤衛  | 書記 堀江貞雄  | 拱手 松尾重一 |
| 書記補 赤木富衛 | 書記補 長岡希雄 | 農會 赤司正脩 |
| 給仕 中島庄一  |          |         |

六救護

救護者を出すことは村の不面目である、けれども世の常として食に野へなく、働くに身の自由を欲ぎ、或は生來不具者等があつて止むなく繼續して生活扶助の救護を以ておる

救護世帯人数

一六八人

救護費

内二分の一は國庫より四分の一は縣より補助を受けおる。

七恩賜賜返治療救護

畏くも治療の資として昭和七年以来御所幣金の御下賜を拜受しておるが昭和九年中に於ける被救護者三十八人で之の治療費が二四九冊五〇束に及び、貧困者の體病救助に一大光明を照せられた。村当局も其の功大無邊なる聖恩に對し心からの御禮を申上げたため受恩者に對しては必す小學校の奉安殿に捲座せしめて合品報恩の行事を行はしめておる

八議會會日

我村の村會も各種の施設や計画が次から次に押し寄せて来ると議案の協議や審議に議員の配慮を願はねばならぬことが年々増一つある。九年中に開會會一たる日数十日、議案総件数四十四件、原案可決四十三件、修正一件であつた。

九基本財産の消長

基本財産を蓄積造成して我村百年の大計を樹てることは自治行政の根幹をなすものである。これは村の財政に餘猶ある無しに不拘容細なる資金に依り増大を図らねばならぬ。然るに其の信條の下に進んでおつた我村が昭和八年より他の緊急不可缺の土木事業に振向けられた為め蓄積中止となり

それ所でなく却つて積年汗みどろになつて蓄田積一つ、あつた大塊の基本  
 金に頼りせぬばならぬことになつた。理窟の見方によつては、良手段ではな  
 いたらうが、これも時代の勢と見なければならぬ。大けそれ知り村の経済  
 村民の資力が増え、程になつ、あることを思はねばならぬ。

|           |           |           |                |
|-----------|-----------|-----------|----------------|
| 現金        | 其他財産價格    | 計         | 備考             |
| 三〇、五五〇、四五 | 一、九四六、一七四 | 五〇、〇一三、一九 | 前二〇〇月、未償還額用せられ |

△ 税 務

「納税成績は自治の尺度なり」と云はれる如く、村内の暮し向きも、人の心の有様  
 も一切合切、納税の二文字に縮図されるのである。昭和九年度中の本村の納税  
 が如何なる消長を辿つたかは左の成績に依つて伺はれるのである。

| 税種 | 調査額     | 納期内納入額  | 納期外納入歩合 |
|----|---------|---------|---------|
| 國税 | 五、七〇、七四 | 五七〇、七四  | 一〇〇、〇〇〇 |
| 縣税 | 五、六八七   | 五、四九三   | 九六、六六   |
| 村税 | 一、九二六、〇 | 一、八一三、九 | 九四、五六   |

納税の内村税が最も徴収上につき困難を伴ふもので、村当局の主力もこれ  
 に注がれておる。更に村税の成績を具体的に示して見る。

| 税目       | 調査課額     | 全上収入額    | 全上未納額    | 前年度(昭和八年度)全上未納額 |
|----------|----------|----------|----------|-----------------|
| 地租附加税    | 二、三四五、〇八 | 二、二八九、四一 | 五五、四六七   | 一八、三、四四         |
| 特別地租附加税  | 一、二九〇、〇五 | 一、一七一、台〇 | 一、一八、四五  | 一九〇、〇三          |
| 営業収益税附加税 | 二〇六、八四   | 一六四、〇六   | 四二、七八    | 三、二五            |
| 家屋税附加税   | 一、二七八、九四 | 一、二三〇、〇二 | 四八、九二    | 九九、三五           |
| 営業統附加税   | 一六一、〇八   | 一五六、八七   | 四、二一     | 一一、四〇           |
| 雑種税附加税   | 一、二五三、〇六 | 一、一六五、六三 | 八六、四三    | 一七〇、四五          |
| 特別税予割割   | 一、二七六、〇八 | 二、九六一、六四 | 七、四、四四   | 一、四一、六四         |
| 合計       | 一、九三六、一三 | 一、八一三、九二 | 一、一三〇、九〇 | 三、〇七三、五六        |

九年度の未納額と八年度の未納額とを比較して、判るごとく、納税歩合の著  
 しく向上したことが伺はれる。  
 次ぎは昭和九年度未納税奨励規程を制定して毎年四五百円の給費を投じて  
 講中又は触を単位として納税完納の向上に精進して、おるが、其の成績は左  
 の通りである。

|       |     |      |      |     |       |    |
|-------|-----|------|------|-----|-------|----|
| 講中又は觸 | 總予数 | 納期内納 | 未納予数 | 歩合  | 奨励金   | 備考 |
| 石田本村触 | 三六  | 三六   | 一    | 一〇〇 | 五四、〇〇 |    |



|         |     |     |          |      |      |      |       |         |        |       |      |       |        |          |     |      |
|---------|-----|-----|----------|------|------|------|-------|---------|--------|-------|------|-------|--------|----------|-----|------|
| 南越能大田講中 | 全 後 | 全 前 | 池田東触上級講中 | 全 真下 | 全 真上 | 全 川向 | 全 下仲組 | 菅仲触下級講中 | 全 原講中四 | 全 井野坂 | 全 村山 | 全 上池田 | 全 神領講中 | 池田東触原講中東 | 全 西 | 君浦上所 |
| 二〇      | 一三  | 一四  | 一一       | 一五   | 六    | 七    | 九     | 一〇      | 一五     | 九     | 一一   | 一三    | 一〇     | 一八       | 二八  |      |
| 二〇      | 五   | 二九  | 七        | 三    | 四    | 六    | 四     | 九       | 三      | 八     | 一一   | 九     | 一〇     | 一四       | 一三  |      |
| 一       | 七   | 二   | 五        | 四    | 二    | 一    | 五     | 一       | 二      | 一     | 一    | 四     | 一      | 四        | 五   |      |
| 一〇〇     | 四一  | 八四  | 六三       | 二〇   | 六六   | 八五   | 四四    | 九〇      | 八六     | 八八    | 一〇〇  | 六九    | 一〇〇    | 七七       | 七二  |      |
| 三〇      | 四   | 一五  | 七        | 二    | 四    | 八    | 三     | 二       | 一八     | 一一    | 一六   | 九     | 一五     | 一六       | 一五  |      |
| 〇       | 〇   | 四   | 九        | 七    | 四    | 四    | 四     | 二       | 六      | 二     | 五    | 九     | 〇      | 八        | 六   |      |
| 〇       | 〇   | 〇   | 〇        | 〇    | 〇    | 〇    | 〇     | 〇       | 〇      | 〇     | 〇    | 〇     | 〇      | 〇        | 〇   |      |

|     |      |     |      |      |      |     |      |        |      |       |          |      |      |      |        |      |
|-----|------|-----|------|------|------|-----|------|--------|------|-------|----------|------|------|------|--------|------|
| 全 中 | 全 西濱 | 全 東 | 全 小浦 | 君浦田崎 | 全 田中 | 全 迎 | 全 目坂 | 印通系浦大地 | 全 其他 | 全 兵田目 | 石田東触後級講中 | 全 其他 | 全 昭和 | 全 中京 | 富田久保講中 | 石田南触 |
| 一   | 九    | 五   | 一    | 八    | 三    | 四   | 二    | 二      | 一    | 九     | 八        | 四    | 一    | 一    | 六      | 四    |
| 五   | 七    | 八   | 一    | 六    | 一    | 二   | 一    | 一      | 〇    | 五     | 一        | 五    | 九    | 三    | 三      | 四    |
| 七   | 二    | 一   | 一    | 二    | 一    | 四   | 四    | 一      | 一    | 九     | 三        | 二    | 一    | 一    | 三      | 一    |
| 四   | 七    | 八   | 一    | 七    | 四    | 六   | 八    | 五      | 二    | 六     | 三        | 九    | 二    | 二    | 五      | 一    |
| 四   | 八    | 一   | 一    | 七    | 一    | 二   | 二    | 一      | 三    | 五     | 一        | 一    | 二    | 二    | 三      | 六    |
| 〇   | 四    | 二   | 五    | 二    | 二    | 六   | 〇    | 〇      | 〇    | 五     | 〇        | 六    | 四    | 〇    | 〇      | 〇    |
| 〇   | 〇    | 〇   | 〇    | 〇    | 〇    | 〇   | 〇    | 〇      | 〇    | 〇     | 〇        | 〇    | 〇    | 〇    | 〇      | 〇    |

|     |     |     |     |    |     |    |
|-----|-----|-----|-----|----|-----|----|
| 全志川 | 一   | 九   | 三   | 七五 | 一〇  | 八〇 |
| 全其他 | 二   | 八   | 一四  | 三四 | 六   | 四〇 |
| 筒城  | 四八  | 一六  | 三三  | 三三 | 一   | 八〇 |
| 筒仲  | 二   | 二   | 一〇  | 一六 | 一   | 六〇 |
| 全塩津 | 一三  | 四   | 九   | 三〇 | 三   | 二〇 |
| 全山根 | 一三  | 三   | 一〇  | 二三 | 二   | 四〇 |
| 全藤川 | 九   | 〇   | 九   | 〇  | 一   | 一〇 |
| 全平西 | 一〇  | 一   | 一〇  | 一  | 一   | 一〇 |
| 全棘  | 六   | 一   | 六   | 一  | 一   | 一〇 |
| 全東  | 七   | 一   | 七   | 一  | 一   | 一〇 |
| 筒城  | 一三  | 五   | 七   | 四一 | 四   | 〇〇 |
| 全廣  | 一四  | 五   | 九   | 三五 | 四   | 〇〇 |
| 全   | 二〇  | 三   | 一七  | 一五 | 二   | 四〇 |
| 全   | 一七  | 三   | 一四  | 一一 | 二   | 四〇 |
| 全   | 七八七 | 四四三 | 三四四 | 五六 | 五三六 | 四〇 |

右の表を閲覧するに昨年(八年)と比して奨励金の交付額が著しく増加  
 したことが、ことに氣附かぬやうなぬ。即ち八年は全額三百貳拾三圓であつたが九年は一躍五百三十六圓四十角に激増である。これは、納税奨励の施設と

として、納税単位、納税組合を諸能限なく組織せしめよく札を揃えて纏りの付く様に仕向へたり又一面人の心の融和と義務の觀念が教育施設に依り培れたらとの見によい。生活上の親身かうすれば、経済上のゆとりがあつた譯ではないが、納税觀念に刺戟されて心の馳みか緊つて、働く氣分になり精出す様になつたことは事は、村民の勤作の上にも顕れて来た

納税組合の設立状況

|       |     |      |
|-------|-----|------|
| 設立後定数 | 設立数 | 未設立数 |
| 組数    | 組数  | 組数   |
| 人員    | 人員  | 人員   |
| 六三    | 五四  | 九    |
| 八一〇   | 七三八 | 七三   |

尚九年度の完納者に對しては、鮮明にして眾人の視線を引くに足る「マーク」を作製し、家々の門口に貼付し、又は松永村長の自費に依り捺手紙を與へる等なしておる。



本村籍籍を傳ふるものは出生してから婚姻、相續、分家、轉籍、隠居、死亡等一切の手續をはずして経なければならぬ。本村は割合に郡外に飛躍する

此におおの方の多いので其の事務も他所に比して頻繁である。これ許すは法律でキヤンと定められておるから簡略とか、粗漏を許されない。昭和九年中に取扱つた事件数は左の通りである。

△印は非本籍人トス

| 月別  | 出生  | 養子縁組 | 養子縁離 | 婚姻 | 離婚 | 死亡  | 家督継 | 隠居 | 入籍 | 親権 | 分家 | 転籍 |
|-----|-----|------|------|----|----|-----|-----|----|----|----|----|----|
| 一月  | 三   | 二    | 二    | 五  | 一  | 九   | 五   | 一  | 一  | 一  | 三  | 一  |
| 二月  | 一五  | 二    | 一    | 七  | 一  | 一七  | 四   | 一  | 一  | 一  | 三  | 一  |
| 三月  | 三   | 一    | 一    | 九  | 一  | 一七  | 七   | 一  | 一  | 一  | 三  | 一  |
| 四月  | 一四  | 四    | 一    | 六  | 一  | 九   | 一   | 一  | 一  | 一  | 三  | 一  |
| 五月  | 二   | 四    | 一    | 六  | 一  | 六   | 一   | 一  | 一  | 一  | 三  | 一  |
| 六月  | 七   | 二    | 一    | 五  | 一  | 一〇  | 一   | 一  | 一  | 一  | 三  | 一  |
| 七月  | 五   | 一    | 一    | 四  | 一  | 一〇  | 一   | 一  | 一  | 一  | 三  | 一  |
| 八月  | 一六  | 一    | 一    | 五  | 一  | 五   | 一   | 一  | 一  | 一  | 三  | 一  |
| 九月  | 一五  | 一    | 一    | 七  | 一  | 一〇  | 一   | 一  | 一  | 一  | 三  | 一  |
| 十月  | 二   | 一    | 一    | 三  | 一  | 一   | 一   | 一  | 一  | 一  | 三  | 一  |
| 十一月 | 一六  | 一    | 一    | 六  | 一  | 七   | 一   | 一  | 一  | 一  | 三  | 一  |
| 十二月 | 二四  | 五    | 一    | 九  | 一  | 一七  | 四   | 一  | 一  | 一  | 三  | 一  |
| 計   | 一九七 | 三三   | 四    | 七三 | 五  | 一〇六 | 三一  | 六  | 八  | 四  | 一七 | 六  |

外に之籍訂正△一。死後家ニ、あり。  
右の内対外に於て出生死亡者左の如し

| 種別 | 本籍  | 籍 | 朝鮮台湾其他殖民地 | 他府縣 | 計   |
|----|-----|---|-----------|-----|-----|
| 出生 | 一五五 | 九 | 二         | 一三  | 一九〇 |
| 死亡 | 八九  | 九 | 六         | 一〇  | 一〇四 |

◎ 謄本抄本交付の状況

昭和九年中の謄本抄本交付数は一、五三三枚にして前年に比して四三枚増加す

△ 兵 事

正に戦端を開かれんとする戦闘準備を何時も考へて置かねばならぬ際であるから兵事の事務の事務こそ、全く緊張味を以て事に當つておる。

◎ 本年の適齡者は五十六名で内在學延期が六名、外國を留一名、出寄受檢四名で受檢したる仕丁数は五十四名(本年適齡四五名、前年假決三名、令第七條志願六)にして検査の結果は左の通りで前年と比べて成績も良好である。  
甲種 一八名 第一種 八名 第二種 九名 丙種 一四名 丁種 五名  
◎ 入營を命ぜられたものは左の通りである。

遼陽獨立弁備歩兵第ニ三大隊

- 歩兵 第四十六聯隊
- 歩兵 第四十四聯隊
- 野戰重砲兵 第五聯隊
- 砲兵大隊
- 佐世保海兵團

- 令第七志 平田源一君
- 神田捨次郎君
- 赤木俊光君
- 井田武敏君
- 杉村徳永君
- 大久保四郎君
- 立石市右君
- 山口八洲君
- 山本茂光君
- 水兵 山川伊勢一君
- 航空兵 久保石光春君
- 令第七志 江口豊春君

② 簡閲點呼の状況

御軍の志氣を鼓舞し國家有事の際に處する訓練洵右の爲めの爲め簡閲點呼は石田、那賀、田河の三村合同の下に石田小學校に於て且取も嚴正に執行せられた。本村參會者は四七名で參會期日変更一名疾病不參二名であつた。

③ 左郷軍人會の活動行進

郷土中堅の自覺に依つて一致團結し思想に經濟に産業に國防の意味なす事柄は他の團體と協力し郷土の爲め國の爲めに歩み續けた我等の左郷軍人會の行跡が左の様を行進に依つて放りた一部を果した。

- 一 月 新年拜賀式 總會 分會發行 入退軍人奉告祭
- 入退軍人勸送迎會 入退軍人會式
- 二 月 紀元廿四拜賀式参列 銃劍術競技會 未入營補充兵教育實施 上海事変出征軍人實戰談 未入營補充兵教育實施 陸軍記念日戰病歿軍人墓參 軍事講話
- 三 月 青年訓練所入所式 指導員ト分會役員ト研究打合會
- 天長節拜賀式 銃劍術競技會 体操祭参加
- 四 月 赤國旗補充兵教育實施 防空演習並目及宣傳 壯丁教育
- 夏季總會 分會報章行 未入營補充兵教育實施 點呼
- 習 壯丁教育 武道大會 簡閲點呼 分會指導受覽
- 八 月 田河、那賀、石田三村聯合分會自振興研究會 徵兵検査 軍事講話

九月 防空演習普通宣傳並豫行、開門北九州防空演習参加 招魂祭  
 聯合分會武道大會日  
 十月 大村支部管下分會長會日 青訓 御軍聯合演習日 神社奉仕  
 十一月 明治節拜賀式参加 白沙八幡神社武道大會参加  
 十二月 寒稽古

△ 社 寺

荒び行く人の心は物負偏重の思想に禍ひされて総てを計算的に理智化を二收廻すべきに之れ事とする 現今では精神的啓蒙運動の底の力が湧き出でなければ自慢すべき事象が起らないとも限らない。茲に宗教的心の培ひに依る運動……敬神崇祖の思念心に燃え社寺振興が昭和九年に著しい事蹟を残したことは他に見られず誇りである 即ち神社では修徳會を組織し、寺院では小學校児童に對し日曜學校の開設等々など今まで守尊の殿堂に蟄居しておられた神官様や和尚様方の社會の第一線に奮然と呼號して去の爲め人の爲めに乗出して下さつたことは、我村の限りなき幸福である

◎ 神社数  
 神社一 村社四 無格社一八

主なる神社

| 神社名    | 社格 | 祭    | 神    | 大祭日   | 氏子信徒数 | 神職    | 位 置  |
|--------|----|------|------|-------|-------|-------|------|
| 白沙八幡神社 | 郷社 | 應神帝  | 仲姫命  | 十月十五日 | 二五〇   | 村田盛重  | 筒城仲能 |
| 天満神社   | 村社 | 菅公古祥 | 女老松殿 | 十月十五日 | 一七〇   | 平田繁朝  | 石田西能 |
| 志々岐神社  | 同  | 日本武尊 | 稻依別王 | 十月十五日 | 一八〇   | 同     | 石田南能 |
| 八幡神社   | 同  | 應神   | 天白王  | 十月二十日 | 九八    | 牧山数馬  | 池田東能 |
| 七郎神社   | 同  | 素盞鳴命 |      | 十月二十日 | 五九    | 神崎重太郎 | 池田西能 |

寺院

| 寺 號 | 山 號 | 所屬宗派 | 本 尊   | 開 山    | 信徒数 | 住 職  | 位 置 |
|-----|-----|------|-------|--------|-----|------|-----|
| 龍峰院 | 雲嶽山 | 臨濟宗  | 藥師如來  | 三徳大禪師  | 二五〇 | 龜井徳門 | 池田東 |
| 傳記庵 | 椿樹山 | 同    | 地藏菩薩  | 白巖義大和尚 | 一七〇 | 後藤正康 | 池田東 |
| 西福寺 | 龍雲山 | 同    | 觀世音菩薩 | 完南全和尚  | 二〇〇 | 山川月海 | 池田西 |
| 寺慶院 | 松尾山 | 同    | 地藏菩薩  | 文秀大禪師  | 一三〇 | 立石玉潤 | 石本  |

◎ 神社修徳會の活動

神社を中心に修徳會が組織されて敬神崇祖の観念を養つたため詔勅の申す旨に徹底や社會奉仕、敬老會、善行者表彰、神社奉拜、祝祭日の國旗掲揚等を行ひ、就中、石田部落は四月三日、筒城部落は上月五日の詔書喚發記念日に總會を開催し諸種の事業を實行してゐる。殊に美奈として讚へられおろのは毎年、の祈念祭、當日、各戸板種を神社へ供へ、御祓を受け、この神聖なる種子を苗代田に播種し秋の穂の初穂を献納して報實の意を表することなどは他に見らぬな  
い行事である。

◎寺院日曜學校の開設

幼き子供時代から宗教の「行」に依つて躰け導くことが人間としての立派な徳性を備へるに最も方法をあるとの見地から、各寺院の御住職の方々も先づ「功を厭はず」兼出して下さる思召が、右寺院共揃つて日曜學校を開設せうと、こゝとになつた。

顧問(村長)  
校長(各寺院住職)  
顧問(學校長)

教員  
寺院住職  
小學校職員  
其  
他

其壇家ニテ適當ニ、三、四角  
事業遂行ノク、主ニ日、賛同者ヨリ  
賛助員ヲ設ケ精神的、物質的ニ助成スルノ

右の様な組織の下に昭和九年六月から右寺院共壇家の児童を中心として一回直前の日曜を遊んで、一寺院につき、百五十人二百五十人は出席して、即佛と申先祖に對し報恩合掌の信仰体験を味ひております。

△衛生

人は朗らかに!!とは唯もが希求する処です。だが人生の明朗を基礎づける健康一之れが大問題です。幾萬の財宝を積んでも身は金殿玉樓に住めども、それは人生の幸、福とは申されたい。病軀にうめきたがう金山を眺めても何か快樂と云けれやう。それよりも健康だ。民衆の凡そが健康であつたり、一家は栄え、村は豊かである筈です。さて本村の衛生状態は、

◎昭和九年中は幸じて傳染病の発生が著しく、秋に僅かに疑似腸チフス患者一名が發生せしのみであつた。これは村民の自覚に依つたことは勿論であるが、村当局として左の様を対策を講じて豫防戦線と繞つた譯である。

1. 腸チフス 豫防注射の實施 一回
2. 定期種痘 音楽 一回
3. 清潔法大掃除、強制實施 三回 (春夏秋)
4. 衛生活動写真 一回
5. 臨時種痘、強制實施 (村民一般) 一回

①「トラホーム」の治療は前年に引き続き特別施設の認可を得て治療及療院にまか  
めておりあり。この施設に依つて行つたことは

大全村民に對し「トラホーム」の診療... 受診者一八九名... 内患者一八〇名  
又毎月専門医師の招聘に依り診療を受けし

②本年中現住死亡者が延千四名で、内結核患者死亡八名(一割八厘強)、乳幼児三〇名  
(四割五厘強)の發生でこれ等の死因に對しては一大警告告を與へる必要がある  
③治療所助手池上カキ氏は病氣のため退職せり本後任として中尾一代子就職せり。  
④昭和九年現住死亡者病類及年齢別調査表

| 病類別   | 性別 |   | 性別計 | 合計 |
|-------|----|---|-----|----|
|       | 男  | 女 |     |    |
| 病類別   | 男  | 女 |     |    |
| 神経系   | 二  | 一 | 三   | 八  |
| 血行器   | 二  | 一 | 三   | 六  |
| 呼吸器   | 一  | 一 | 二   | 九  |
| 消化器   | 一  | 一 | 二   | 四  |
| 泌尿生殖器 | 一  | 一 | 二   | 一  |
| 妊娠及産  | 一  | 一 | 二   | 二  |

| 合計 | 幼年 |   | 老年 |   | 外因 |   | 合計 |
|----|----|---|----|---|----|---|----|
|    | 男  | 女 | 男  | 女 | 男  | 女 |    |
| 合計 | 二  | 一 | 一  | 一 | 一  | 一 | 七  |
| 幼年 | 五  | 四 |    |   |    |   | 九  |
| 老年 |    |   | 一  | 一 |    |   | 二  |
| 外因 |    |   | 一  | 一 | 一  | 一 | 五  |
| 合計 | 二  | 一 | 一  | 一 | 一  | 一 | 七  |

⑤昭和九年死亡者調査  
乳幼児の死亡三〇名 死産児二名あり  
本村現住

| 住所  | 死亡者氏名 | 年齢 | 死亡月日  | 戸主続柄 | 戸主氏名  |
|-----|-------|----|-------|------|-------|
| 君浦  | 平田徳十  | 五二 | 一月五日  | 父    | 平田伊勢光 |
| 印通寺 | 齊藤イソ  | 六三 | 一月九日  | 母    | 齊藤誠一  |
| 池仲  | 真弓フイ  | 七五 | 一月二五日 | 母    | 真弓能治  |
| 君浦  | 平田万四郎 | 四七 | 一月二七日 | 父    | 平田真一  |
| 池東  | 齊藤マノ  | 八〇 | 一月三十日 | 養母   | 齊藤清太郎 |
| 石西  | 松永岩三  | 六八 | 二月二日  | 父    | 松永岩三  |
| 山崎  | 江口利男  | 一  | 二月八日  | 孫    | 江口巽市  |

|        |       |       |       |        |       |       |       |       |        |       |       |       |       |       |
|--------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 石池     | 石西    | 君浦    | 筒仲    | 筒東     | 池東    | 石西    | 石南    | 印通寺   | 君浦     | 石南    | 筒仲    | 君浦    | 池西    | 筒西    |
| 吉田アキ   | 山口サミ  | 住吉直三郎 | 岩井マツ  | 中村武右衛門 | 山本菊藏  | 齊藤イマ  | 松永光信  | 中尾吉三郎 | 上川興右衛門 | 平田シチ  | 山口クヲ  | 岡本万治郎 | 中村嘉陣  | 古川善八  |
| 七台     | 五六    | 二〇    | 八三    | 八四     | 八九    | 九三    | 九二    | 六九    | 八〇     | 二〇    | 二二    | 六一    | 五二    | 五六    |
| 十月二十八日 | 十月二十日 | 十月二十日 | 十月二十日 | 十月二十日  | 十月二十日 | 十月二十日 | 十月二十日 | 十月二十日 | 十月二十日  | 十月二十日 | 十月二十日 | 十月二十日 | 十月二十日 | 十月二十日 |
| 祖母     | 妻     | 長女    | 養父    | 母      | 弟     | 父     | 母     | 孫     | 父      | 祖父    | 姉     | 妹     | 父     | 孫     |
| 吉田岩光   | 山口新三郎 | 住吉是太郎 | 山本幸之進 | 岩井マツ   | 中尾政義  | 山本菊太郎 | 齊藤徳太郎 | 松永光三郎 | 中尾芳光   | 上川徳太郎 | 平田真一  | 山口吉武  | 岡本繁春  | 中村又四郎 |

|       |      |       |      |      |       |       |       |       |      |       |       |      |      |       |      |      |      |
|-------|------|-------|------|------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|------|------|-------|------|------|------|
| 筒西    | 筒西   | 池仲    | 君浦   | 君浦   | 石南    | 石東    | 池西    | 池西    | 筒仲   | 君浦    | 池西    | 君浦   | 印通寺  | 筒仲    | 筒仲   | 池仲   | 印通寺  |
| 長島國太郎 | 松本平海 | 山口常三郎 | 坂口セツ | 横山静枝 | 豊永栄四郎 | 長島ヒナ子 | 野本博   | 大久保カヨ | 松島重繁 | 平田助三郎 | 植村一孝  | 平田萬藏 | 西川久吉 | 山川瀨十郎 | 岡本正子 | 安岡近多 | 山川カメ |
| 七五    | 二三   | 四一    | 四一   | 一    | 七三    | 五     | 三     | 二     | 五八   | 七一    | 二     | 七三   | 六四   | 八二    | 一    | 五三   | 一〇二  |
| 六月十日  | 六月十日 | 五月十日  | 五月十日 | 五月十日 | 四月十日  | 四月十日  | 四月十日  | 四月十日  | 三月十日 | 三月十日  | 三月十日  | 三月十日 | 二月十日 | 二月十日  | 二月十日 | 二月十日 | 二月十日 |
| 父     | 弟    | 父     | 妻    | 孫    | 父     | 孫     | 長男    | 二女    | 父    | 父     | 四男    | 父    | 父    | 父     | 孫    | 父    | 母    |
| 長島藤教  | 松本梅夫 | 山口茂   | 坂口又吉 | 横山又工 | 豊永政美  | 長島常太郎 | 野本彦次郎 | 大久保常盛 | 松島實男 | 平田万三  | 植村善太郎 | 平田義  | 西川一  | 山川数光  | 岡本太郎 | 安岡繁  | 山川キク |



|     |        |    |       |    |        |
|-----|--------|----|-------|----|--------|
| 印通寺 | 山内 八十  | 二九 | 十月四日  | 長女 | 山内 徳太郎 |
| 印通寺 | 横山 喜四郎 | 六二 | 十月七日  | 父  | 横山 キ子  |
| 池 東 | 大谷 五作  | 七九 | 十月九日  | 父  | 大谷 俊太郎 |
| 池 東 | 野元 亦次郎 | 五四 | 十月十七日 | 父  | 野元 二郎  |
| 印通寺 | 田中 マツ子 | 二  | 十月十七日 | 三女 | 田中 五三郎 |
| 筒 仲 | 筒井 サミ  | 七九 | 十月十五日 | 養母 | 筒井 豊武  |
| 筒 仲 | 所田 静子  | 二  | 十月十六日 | 二女 | 所田 非衛  |
| 山 崎 | 赤木 貞吉  | 八五 | 十月六日  | 父  | 赤木 貞吉  |
| 池 仲 | 松田 スミ子 | 二  | 十月三日  | 孫  | 松田 忠 郎 |

非本籍人

|     |       |    |       |    |        |
|-----|-------|----|-------|----|--------|
| 筒 東 | 江田 スミ | 八五 | 二月二日  | 母  | 江田 春栄  |
| 印通寺 | 水上 典江 | 二  | 三月二日  | 二女 | 水上 直   |
| 君 浦 | 佐藤 善助 | 七二 | 十月十九日 | 父  | 釣 岩ツ子  |
| 池 仲 | 松本 カ子 | 三  | 十月十四日 | 婦  | 池上 栄三郎 |

△消防組

一統乱れぬ統制の下に規律的に行動しつゝ、ある消防組は単に「火消」と云ふ一部的

の任務でなく、社会一切の治安、防護の任に當り、其の職責は戦場に於ける軍人の如く、平常に於ける我等の守護として、四千有餘の生命と背負つて立つの概がある。さて九年中に於ける勤勞の模様は、

| 部別 | 区   | 域 | 人員 | 組 | 頭     |
|----|-----|---|----|---|-------|
| 一部 | 印通寺 |   | 一三 |   | 齊藤清太郎 |
| 二部 | 山崎  |   | 五  |   | 江平 市  |

◎行事

- 一月六日 石田小学校の庭に於て若松武水警官署長、石田村長、村自治議員等列席の下に出初式挙行
- 一月十一日 組頭宅にて原田巡查列席の下にガソリンポンプ購入に關する第一回幹部協議會を開く。
- 一月二十九日 舊曆年末夜敬言防火宣傳に關し幹部會を開き、当夜より夜敬言に従事す
- 二月三日 田河村八幡浦火災に於て應援に出場す
- 四月四日 ガソリンポンプ購入
- 四月十八日 幹部一同湯本ガソリンポンプ購入祝賀會の招待を受け見附の列席す

四月十九日 印通寺、浦田中町溝口清三郎氏隣家失火、大事に至らずして消  
し止む

四月七日 其筋より優良消防組調査作成、今年あり翌八日提出す

七月六日 防空演習のため 全員招集

八月十六日 田河村若辺、浦清石濱にて聯合演習に出場す

十月二十五日 日本日より二日間、ポンプ購入基金作成。為、歌舞枝芝居興行す

△ 勸業

◎ 農業・漁業・工業・商業・羊毛の業態に分類して、全部を整理す  
す。を許さないか、農業と漁業に限つて示すことにする

◎ 農業  
水田面積二百十四町、畑面積五百六十七町を有する本村の農業は、  
生産額が二十兆円、余田位を播種、少いこと先進地をこれに比し、  
米の生産は、これを同じレ、ル、も上げやうと、左種の計出を、  
80

て、努力を拂つてある

| 種目                        | 作付面積 | 収穫高   | 價格      | 附記  |
|---------------------------|------|-------|---------|---|
| 米                         | 一一四町 | 二二三九石 | 五四三・二六円 | 本年度ハ田植當時早播、罹り田植時期遅延シタルトシ、<br>若シク收穫ノ減シタリ、然ラテ品質モ悪シク、穀物検査<br>ノ結果、等外ノ品、意外ニ多シ、優良品タル神農ハ<br>相當普及シタルモ、尙大知片ハ劣悪品種多シ         |
| 小麦                        | 二    | 二五三   | 三九・九円   | 小麦ノ價格ハ、稈美ニ比シ大差ナキ、種中ノ善クシレバ一時急<br>激ニ伸長シテ、アリシレニ稍々下火トモセリ、然ルニ收穫又ニ<br>シテハ近年稀ニ見ル好成績ヲホシ、小麦増産ニ依リ外部<br>カラ移入ノメリケン粉ガ大部分紅造ニシタリ |
| 裸麦                        | 三四七  | 三六四三  | 四〇・七三   | 裸麦ハ良好ノ結果ヲ得サリキ、栽培法ニ稍々改良カノ<br>跡、顕レタリ、其トテ廣播ニ依リ甘味、栽培トノ連絡ニ<br>得業ノ感、受セシメタリ  |
| 蕎麦                        | 一六五  | 一〇・三三 | 一五・三八五  | 優良品種、普及ニ伴ッテ、病害虫、猛烈ニ繁殖シタル<br>タメ、收量ト共ニ品質モ悪影響、日ヲ及ボサレタリ   |
| 大豆                        | 二九五  | 一七七〇  | 二五・七五   | 大豆作ハ可成他、有利ナル作物ニ轉換セシメ、其ノ共<br>ノ進度、度々トシテ揚ラズ  |
| 苗挿期ニ降雨ナキタメ、植度ニ植付期、遅レタリ、其ノ |      |       |         |   |

|           |       |       |       |  |
|-----------|-------|-------|-------|--|
| 甘藷        | 八〇町   | 三六〇〇  | 二、六〇〇 | 結果收穫ニ著シキ減少ヲ来セリ<br>一般ニ甘藷栽培面積増大シテ、アルハ本村ノ奨励方針ニ合致シ決定通り運べリ                      |
| 雑穀        | 一三三ヶ  | 一〇二七  | 一〇二七  | 昨年ニ比シ大差シ 自給自足ヲ主眼トス   |
| 一般<br>蔬菜類 | 四三    | 九、三三八 | 九、三三八 | 西瓜、大根、玉葱、馬鈴薯、牛蒡、白菜、トマト、<br>夏野菜等デアル、年々栽培面積増大シテ、玉葱、<br>大根等ハ本村トシテモ一大飛躍ヲ劃シツ、アリ |
| 畜牛        | ハニ七   | 七、二〇〇 | 七、二〇〇 | 畜牛ハ現在ノマ、頭数ヲ維持スル方針アルモ却ツテ昨年<br>ニ比シ頭数増加ヲ来セリ、之レ牛價、騰貴ト連年交尾<br>奨励ノ結果ニ因ルベトス       |
| 養鶏        | 九二八三羽 | 五、〇七四 | 五、〇七四 | 昨年ニ比シ飼育頭数多クナリタルハ卵價ノ高揚シラレヨル   |

◎農業總生産額と一戸当の割合を示せば左の通りである。

農業總生産額 二一〇万二千六百七十八円  
一戸当の割合 二百八十八円

◎漁業

年々減少シつゝ、ある沿岸漁業は昨年より本年と、益々下向線と出リ  
て前途憂鬱たるを思はしむ

△全漁獲高 壹万七千八百拾四  
△經濟更生

全國を通じての經濟更生運動も疲弊に瀕々苦一マは藁をもつかむ思ひで  
柵からぼたもちが落ちて来り位を考へておつたが、そんな浮調子の考へでは却つて民心  
を墮弱に陥れし傾向があつたのである、即ち理想語の計算的の經濟観念  
にのみ把りて進むときは、逆風に逆風——計劃した事柄が左舞ひする様になる  
心はくだけきつと挫折するのが普通である、事實本村の歩みも亦其  
轍を踏んで来ておる、而も計劃は役場や農會の主眼者の案出したのであ  
るから、下々から湧き出た眞の心、ぼーではない、其結果は無理押し、悪  
弊がある、故に魂を打込んどの働きが湧て来ない

茲に我村としては方向轉換をするの要に感せられ先づ村民の魂のたたき直し  
から、かゝるねば、永久的、根本的の更生運動の力ある花は咲かない、是こそ經  
済と相伴つ精神更生の運動が当然必要となり、全村教育の施設が行は  
たのである、併し心の緊め方や魂の叩き直しも口先のみでも達せられな  
張りの働くと云ふ自からの肉體苦の中に若行——難行する體驗、指導  
が最も必要である事を指導關係者も認識を新し、精進してある、  
昭和七年以来經濟更生運動の旗幟を翻して右種の方面に實行を促して

るがこれを触別に競けしめて村勢の全般に益かたなる向上線を出し、また  
 ため部落振興競勵會を開催し、又々精神更生を中心し、触の纏りを能の  
 事業の實行を促すための部落常會等を開催し、村民の中とりの付  
 く様にと努力を拂つた。

◎部落振興競勵會

左の通り審査を設く。

- 1. 庶務 三、〇〇〇 員
- 2. 農林 二、九五〇 員
- 3. 經濟 五、〇〇〇 員
- 4. 經濟 二、六五〇 員

以上の審査の結果其の成績は左に示した通りである。

| 触別 | 庶務    | 農林    | 經濟    | 教育   | 合計    | 順位 |
|----|-------|-------|-------|------|-------|----|
| 石本 | 三、七三〇 | 一、三二四 | 一、六〇〇 | 〇、三一 | 五、八三七 | 二  |
| 石南 | 二、五一七 | 一、五九五 | 一、六七四 | 三、一九 | 六、一〇五 | 一  |

◎部落常會日誌

触別の日割及係員左の通りである。

| 触別  | 額向    | 大字主任  | 大字副主任 | 触主任 | 触係    | 毎月開催日 |
|-----|-------|-------|-------|-----|-------|-------|
| 石西  | 一、五三一 | 一、三七八 | 一、一四六 | 二八九 | 四、三四四 | 六     |
| 石東  | 一、二二三 | 一、一一三 | 九一七   | 三三〇 | 三、五九五 | 一     |
| 印通寺 | 一、四〇八 | 四二七   | 五〇八   | 二九六 | 一     | 一     |
| 君東  | 一、八三四 | 四二七   | 九九八   | 一八五 | 三、四四四 | 二     |
| 君西  | 一、五〇四 | 三二五   | 一三四一  | 一三七 | 三、三〇七 | 三     |
| 池西  | 一、一六六 | 一、三八四 | 七三六   | 三五九 | 四、六四五 | 五     |
| 池仲  | 一、四一〇 | 一、七八三 | 一、三六六 | 二五九 | 四、八一八 | 四     |
| 池東  | 一、六四八 | 一、五四〇 | 三、〇七六 | 四三二 | 五、六九六 | 三     |
| 筒西  | 一、五三六 | 一、九七九 | 一、四八九 | 三八九 | 四、三三三 | 七     |
| 筒山  | 一、二九三 | 一、〇六四 | 一、五四七 | 三三一 | 四、一三五 | 八     |
| 筒仲  | 一、六六七 | 一、一六六 | 一、五三二 | 三九五 | 三、七六〇 | 一〇    |
| 筒東  | 一、九三五 | 一、〇三六 | 一、五四四 | 三三四 | 三、八四九 | 九     |

|   |       |      |      |      |      |     |
|---|-------|------|------|------|------|-----|
| 本 | 久原總會長 | 中島直樹 | 赤田直時 | 赤田直時 | 中島直樹 | 二五日 |
|---|-------|------|------|------|------|-----|



|        |                             |                |   |      |
|--------|-----------------------------|----------------|---|------|
| 三月十一日  | 産業組合<br>青年一聯盟               | 學廳<br>山崎 屬     | 産業組合理解及運動<br>の展開期スル   | 一三〇名 |
| 五月ニキル日 | 青年會日誌會<br>即ち振興講演會及<br>夜間講習會 | 大分縣<br>出敬義川氏   | 自治の進展の目的トシテ<br>此の民精神の陶冶   | 三八〇名 |
| 五月一日   | 全科學校開校式                     | 縣庁<br>森 技手     | 經濟の生産運動の實行<br>促進ニ付テ   | 三二〇名 |
| 五月十六日  | 農道精神大講演會                    | 學務部長<br>山口 視學  | 全科講習會の實施ニ當リ<br>之理解  | 五〇〇名 |
| 七月十一日  | 女子青年團<br>田植競技會              | 石川傳吉氏          | 確固たる農道精神の<br>養成ニ付テ  | 一八〇名 |
| 七月十九日  | 主婦會臨時總會                     | 壽押助教諭<br>其他技術員 | 勤勞精神鼓吹スル  | 九〇名  |
| 七月十九日  | 青年會臨時總會                     | 大分縣<br>出敬義川氏   | 宗教ニ就テ   | 五〇〇名 |
| 八月十一日  | 青年一夜講習會                     | 大分縣<br>出敬義川氏   | 精神の更生及産業<br>の振興   | 二五〇名 |
| 八月十四日  | 大字別日夜講習會                    | 縣庁<br>杉尾 主事    | 畜産の飼育の管理、<br>改良習得ニ付テ  | 四五名  |
| 十月四日   | 俵装講習會                       | は源太郎氏          | 公法アル、善良ナル青年ヲ<br>養成スルニ付テ、一般産業<br>の振興ニ寄与スルニ付テ、<br>改良俵装、技術修得、<br>ニ付テ | 四五名  |
| 十月三日   | 体育デー                        | 小學校職員          | 團體的訓練、養成  | 二五〇名 |

◎講中組の活動

昭和八年以来組織中であつた講中組も五四組正式に届出があつたが、主として糾統のことを司つてゐる。此講中組こそ關係失助の典型的團體で一部の講中組では農事の改良等も行はれておるし吉山禍福の交りは昔日の如く、産の様な甘い親しみを以て行はれておる。産、將來には此の講中から中心となつて全般的の活動が萌芽して来る事であらう。

△農會

農事を営むものに農會なかりせば、國に於ける農家なきと等しく危險と悔りを受けらるるのである。現今の様には農産物の生産から消費に至るまでの凡百の事柄は一何人の農業者自體のみでは複雑なる。經濟界に於て一で行く事は定まらぬ困難の事と思はねばならぬ。見よ、米價の維持も農家員担の問題も、故農土ホ事業も、早害対策等も皆我等農會の責任の所在である。更に引いて動に依りてのみ農業者の福利増進は図られておるのである。更に引いては日々の農事の指導奨励や害虫駆除なども、なまものト至るまで農會の責任である。我々等は本村農會の九年途中の施設の事項はどんなものであつたか大略概算に依つてこれを示して見る。

支 出

|           |     |
|-----------|-----|
| 一 事務員俸給   | 三六〇 |
| 二 需用費     | 一四〇 |
| 三 雑費      | 一四〇 |
| 四 會議費     | 五七〇 |
| 五 技術員費    | 六〇〇 |
| 六 農事奨励費   | 四〇〇 |
| 七 補助費     | 一〇〇 |
| 八 郡農會員担   | 一四〇 |
| 九 豫備費     | 七〇  |
| 一〇 會員割    | 一六〇 |
| 一一 地租割    | 四〇七 |
| 一二 村費補助   | 四四〇 |
| 一三 郡農會補助  | 四五〇 |
| 一四 産業組合補助 | 四七〇 |
| 一五 雑収入    | 一五〇 |
| 一六 繰越金    | 一六〇 |

以上の豫算を見るときに技術員費に大部分を占められておる。色々の事業も指導者、存否が農會の振否に重大なる影響を及ぼすものである。故に九年は養蚕の技術員も農會に常置して普通農事の技術員と一緒に農事の指導啓蒙に努めておるのである。而論村の施設計劃に順應してやつておるのであるが、毎日毎日農家を訪問して實地に手を取つて及ぶ限りの指導をやつておるのである。

△ 其他の團體

◎ 漁業組合

漁獲物の年々衰れ行く現今では漁業組合の一段の活動を促すの要ある見知り、政府でも漁業組合法の改正をなし、真の漁民の福利増進を計るべく経済活動の第一線に突進する事にたかりつゝ、ありて我が村の漁業組合も之に順應して改正を急いでおるが、まだ其の手續未だには運んで居ない。

◎ 農事実行組合

簡易法人に改めた組合が八組合で未だ其手續を終へざる組合が池西、石東、石西、竹東、竹山、の五組合である。各種の品評會や農事視察會、玄田舎の改良、共同販賣等、農事の福利増進に努めておる。

◎ 青年人会日

働き盛りの壮年の意気込みで固められた本郡唯一の此の青年会(こ)は、社会の  
の凡ゆる方面に向つて活動の血脈を繞つてゐる。社会の出来事は勿  
論、国家的行事の轉旋等、青年会員の手で行はれてゐる。

◎ 主婦人会日

主なる事業は

貯金

八、九五〇円

秋蔬菜種子共同購入ニ〇〇円

共同製茶

一三所

印通寺浦の主婦会支部が未だ設立を見せりしが、皇太子殿下の御降誕記念  
として漸く生れ去る九年の二月三日の奉祝会日へも参加し、めた事はこと  
は印同慶のまゝであつた。

会員総数 五四八名

十五支部

◎ 唐津壹岐運輸株式會社

昭和四年七月創立の本社は印通寺港を基とし、毎日午前八時発、呼子西  
唐津往復し午後五時に帰港するのである。流航以來本郡と本土との交  
通上多大の便福を蒙つてゐる。

◎ 男子青年團

胸に輝く希沙玉の躍動、口を吐く五月年の誇りであり生命である。若き血潮  
に手をとり合つて固く結ばれた僕等の青年團も創立以來十有七年、脈々と  
伸び行く其の姿、能くも今や立派な青年團となつて、其の動作と云ひ、其の  
云ひ、其の情懷なく、其の揮し、益と使命に向つて大きな幅の歩みを續けてお

船名 唐津丸

総噸数 二七、五五

資本金 壹万二千円

社長 田中泰一

乗降客 四、一三五名

團員数 一九八名

年齢 自十四才至十五才

支部 一四

経費 一五〇円

事業

- 運動會、更生青年會、共働會、修養會、一休講習會
- 輪讀會、右支部、同人會、習習地経営、生産品評會、一人一孫先
- 水田裏作奨励、義士會、武道會、向方、綱引、講習會、産業
- 視察、道路、神社奉仕

驛傳競争出技と優勝盃の獲得

壹岐日日新聞社主催 第一回全壹岐對抗驛傳競争は九年五月二日に期し、敢行された。





蓄積開始 昭和九年四月より

蓄積後の使途 教育的施設に限る

現在の蓄積金額 五十五円五十五銭

◎皇太子殿下御降誕奉祝大会日 附敬老会日

五月三日は石田校の創立記念大運動会であるが時恰も皇太子殿下の初端午のお節句であるので奉祝の意を捧げるため本校内民家にある五月職を全部學校の庭に持寄り一校庭の周囲に限らず百十尊の奉祝を奉祝気分を漂はせた。更に又此の御芽出度いよいよ日を祝ったために敬老会を催し八十以上の高齢者を學校へ招待申上げ聊か粗酒粗肴を献じ且つは記念撮影等をして心かうなる奉祝の意を表した。

敬老会出席セニ名

◎雨乞祈願

田植期に降雨がないため農家のもかき、は衰れと云ふも尚痛しい思ひである。茲に神の神力に依りてと云ふ高なる心の及路から若神社に對して七月六日より一週間雨乞祈願として、やう願なき心の慰めたと赤誠を披瀝して念願した結果は、御利役の効目、寔に顕著に、七月十日午後一時三分より、降るは、一夜に雨量七十九粒、全く天祐と云ふ瑞喜の涙を流して勇み励んで農事に精勵した。

◎三村學校体育大会

土曜日の明治節をトレ本校は昭和九年から全村學校の行事として五月年會日主婦會日聯合の体育大会を開催することとなつた。四十名以下の壮年諸君の運動會日だけ、何となく感大な感にかす時恰も福刈期であるし、真重な一日の暇であるか、う娛樂と云ふ意味はなく、体育の向上に依り規律、自制、克己、忍耐、犠牲、貫徹の個人的陶冶並に友愛互助、協同一致の團体的訓練、進めは指導、支配、統制の公民的徳性を養成するのが目的である。始めての試みであるので一日の忙いのも休んで見物人山をなしい本校運動會以上の盛會日であつた。

運動の成績

| 種別 | 順位 | 得点 | 出席 | 競技 | 女子 | 男子 | 驛傳 | 綱引 | 二百米 | 米徒走 | 得点 | 備考 |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|----|----|
| 山崎 | 1  | 48 | 24 | 24 | 3  | 3  | 5  | 1  | 3   | 3   | 6  |    |
| 筒西 | 2  | 46 | 28 | 18 | 2  | 4  | 1  | 6  | 1   |     | 4  |    |
| 石西 | 3  | 45 | 25 | 20 | 1  | 4  |    |    |     | 2   | 4  |    |
| 石東 | 4  | 44 | 25 | 19 |    | 1  | 3  |    |     | 3   | 4  |    |
| 君東 | 5  | 42 | 28 | 14 |    | 2  |    | 4  |     | 4   | 4  |    |

|    |    |    |    |    |    |    |    |    |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 石東 | 石南 | 池東 | 筒東 | 石本 | 池仲 | 置寺 | 池西 | 君西 |
| 14 | 12 | 14 | 14 | 19 | 9  | 8  | 7  | 6  |
| 23 | 28 | 30 | 32 | 33 | 33 | 37 | 38 | 40 |
| 21 | 28 | 27 | 20 | 28 | 28 | 28 | 28 | 28 |
| 2  | -  | 3  | 12 | 5  | 5  | 9  | 10 | 12 |
|    | 6  |    |    |    |    | 5  |    | 4  |
|    |    |    |    |    | 6  |    |    | 5  |
|    | 6  |    | 1  | 2  |    |    | 4  |    |
|    |    | 5  |    |    | 6  | 3  |    |    |
|    |    |    |    |    |    | 4  | 2  | 5  |
|    |    |    |    |    | 6  |    | 5  | 2  |
|    |    |    | 6  | 1  | 5  |    |    |    |
| 2  |    | 2  | 2  | 1  | 4  | 3  | 3  | 4  |

コ正四、数字ハ順位ヲ表スモノナリ

◎山内庄三郎氏の歓迎會

久しく青島に活躍せられておつた山内庄三郎氏が九月に暮参。たの帰省されたのを平素本村の消防組や武徳殿建設等に御力添へを以て戴いておられた御成り名遂げた名士に對する儀礼を表すため村内有志相謀り歓迎會を  
 購し我等の意思の存する片鱗を捧げた。 参加者 六ニ名

◎故辻川與一右エ門公翁の村葬

明治大正昭和を通じての本郡政界の大御所辻川與一右エ門公翁 九月二日 喜三子 48

として逝去せらる。茲に生前社會公夫に竭されし翁の遺徳に酬ゆよため村葬の儀禮を捧げた。維時九月五日、朝から降り注ぐ雨は初秋の大地に力なく惜別の情を思ひが如く一入哀寂の雲團氣に塞まれた。公翁の白息藉に入らる。報四方に傳はるや却外より、平電嵩高く積まれ名士よりの平換花輪、靈柩に飾され豪華な彩りであつた。正午頃になつた雨も止んで、村内外より多数頭紳、有志人會場、石田小學校に集り来り一段と光彩は放たれ、村内外も消防組、青年會、主婦會等の右団体員小學校児童等幾千の人にて埋まられた。告別式の勤行もいと壯嚴に行われ、辞は十三の代表者を以て朗讀され、書きぬ名幾の言句も思慕の情をそ、られた。斯くして永久のお別れの台座を捧げて永久の平の行事を終へた。

◎農繁期託児所の開設

夏の植付頃は猫の手も借り度い様な忙しさであるが、子を待つ親は手鐘ひ足纏ひの幼き子供の為め心はあせりか、事業は運ばないのか、普通通である。茲に社會的施設として農繁期託児所の必要は起る所以である。昭和九年は一躍四ヶ所も開設し、農繁期に於ける農繁期の作業能率に於ける位助を要したか計り知れない、当業者も味、行事に對しては感謝の意を捧げておる。

| 託児所名   | 経営者         | 託児期間          | 場所      | 託児数  | 経費  |
|--------|-------------|---------------|---------|------|-----|
| 池仲能託児所 | 実行組合長 止原太郎  | 六月二十日<br>十日間  | 池仲 青年會場 | 一五七名 | 五五円 |
| 石田小学校  | 小寺校長 柏村正徳   | 六月二十五日<br>十日間 | 石田小学校   | 六五名  | 六二円 |
| 石東能    | 主婦會支部長 平山イナ | 六月二十六日<br>十日間 | 平山医院    | 二五名  | 三〇円 |
| 筒井分教場  | 分教場主任 後藤綱賀  | 六月二十六日<br>十日間 | 分教場     | 一五〇名 | 九五円 |

△ 學校教育

八百九十三人の小学校児童と百五十六人の補習學校生徒を有し新時代に適應したる人物を養成すべく二十三名教職員で全身全霊を捧げおこなふ。田校も其の元氣横溢し單なる教室のみに蟄居躊躇することの非を潔きよしとせず一般社會的方面にも兼出して教化運動の旗幟を掲げ師落常會に奉仕作業に挺身公た押し進み社會も其の活躍に大きな瞳を見張つて注目を引いた。

◎ 児童生徒の増加状況

| 年度  | 小 學 校 |    | 高 級 小 學 校 |    | 補 習 學 校 |    |
|-----|-------|----|-----------|----|---------|----|
|     | 男     | 女  | 男         | 女  | 男       | 女  |
| 昭和九 | 一一    | 一一 | 一一        | 一一 | 一一      | 一一 |
| 昭和八 | 一一    | 一一 | 一一        | 一一 | 一一      | 一一 |
| 昭和七 | 一一    | 一一 | 一一        | 一一 | 一一      | 一一 |
| 昭和六 | 一一    | 一一 | 一一        | 一一 | 一一      | 一一 |
| 昭和五 | 一一    | 一一 | 一一        | 一一 | 一一      | 一一 |
| 昭和四 | 一一    | 一一 | 一一        | 一一 | 一一      | 一一 |
| 昭和三 | 一一    | 一一 | 一一        | 一一 | 一一      | 一一 |
| 昭和二 | 一一    | 一一 | 一一        | 一一 | 一一      | 一一 |
| 昭和  | 一一    | 一一 | 一一        | 一一 | 一一      | 一一 |

◎ 職員現状

兼任校長柏木正續氏の下に三十一人の職員が居られその組織左の通りである

| 大正九 | 昭和九 | 昭和八 | 昭和七 | 昭和六 | 昭和五 | 昭和四 | 昭和三 | 昭和二 | 昭和 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|----|
| 一一  | 一一  | 一一  | 一一  | 一一  | 一一  | 一一  | 一一  | 一一  | 一一 |
| 一一  | 一一  | 一一  | 一一  | 一一  | 一一  | 一一  | 一一  | 一一  | 一一 |
| 一一  | 一一  | 一一  | 一一  | 一一  | 一一  | 一一  | 一一  | 一一  | 一一 |
| 一一  | 一一  | 一一  | 一一  | 一一  | 一一  | 一一  | 一一  | 一一  | 一一 |
| 一一  | 一一  | 一一  | 一一  | 一一  | 一一  | 一一  | 一一  | 一一  | 一一 |
| 一一  | 一一  | 一一  | 一一  | 一一  | 一一  | 一一  | 一一  | 一一  | 一一 |
| 一一  | 一一  | 一一  | 一一  | 一一  | 一一  | 一一  | 一一  | 一一  | 一一 |
| 一一  | 一一  | 一一  | 一一  | 一一  | 一一  | 一一  | 一一  | 一一  | 一一 |
| 一一  | 一一  | 一一  | 一一  | 一一  | 一一  | 一一  | 一一  | 一一  | 一一 |

| 小 本 正 | 尋 正 専 訓 準 訓 代 用 教 員 補 専 任 |
|-------|---------------------------|
| 男 九   | 男 二                       |
| 女 五   | 女 一                       |
| 男 二   | 男 一                       |
| 女 一   | 女 一                       |
| 男 一   | 男 一                       |
| 女 一   | 女 一                       |
| 男 一   | 男 一                       |
| 女 一   | 女 一                       |
| 男 一   | 男 一                       |
| 女 一   | 女 一                       |

校長外職員の名並に(担任学年)を與へれば  
 後藤綱賀(分尋一) 町田常衛(分尋二) 江口千枝子(分尋三) 有浦(尋一梅)  
 神崎久代(尋一櫻) 有浦一三三(尋二梅) 佐野哲子(尋二櫻) 竹藤清一  
 (尋三梅) 坂口不二子(尋三櫻) 牧山教馬(尋四男) 岩根タカ(尋四女)  
 志水然生(尋五男) 坂口ミチノ(尋五女) 市山敷代(尋六男) 本田直時  
 (尋六女) 寺田什時(高一男) 松永正敏(高一女) 中田充年(高二男)

◎ 小學校卒業生状況調

|     |     |      |                |   |           |                          |
|-----|-----|------|----------------|---|-----------|--------------------------|
| 學年  | 在籍  | 卒業者數 | 卒業後就職<br>留マレ者數 | 中等學校行<br>(希望者)                            | 旅立シテ<br>數 | 備考                       |
| 尋六男 | 五〇  | 五〇   | 三              | 中學校 四                                     | 旅立シテ 一    | 高等科入學 四二                 |
| 尋六女 | 四九  | 四九   | 〇              | 女學校 四                                     |           | 高等科入學 四〇<br>奉公 五         |
| 高二男 | 五三  | 五三   | 二〇             | 中學校 一                                     | 二六        | 其他 五                     |
| 高二女 | 三六  | 三六   | 二七             | 中學校 一                                     | 三         | 高等科入學 一                  |
| 計   | 一八八 | 一八八  | 五〇             | 中學校 六<br>女學校 一<br>女學校 四<br>女學校 五<br>女學校 六 | 三〇        | 高等科入學 八二<br>奉公 五<br>其他 五 |

◎ 學校に由寄贈された由芳名

椰子の實三個 檳榔樹の實三個  
金 七 月 也  
軍艦金剛額面  
福翁自傳 拾部  
ラジオ用 B 電池 貳個

軍艦八重山組  
山口 春雄 殿  
山川 滿重 殿  
野本 彦二郎 殿  
松永 英太郎 殿  
福川 元芳 殿

◎ 柏木校長の奏任待遇披露祝賀會

初等教育界のため永年竭された功に依り奏任待遇の恩遇に浴し感激の心に充された。去る九年三月十九日披露のため甘河の有志者團體長を學校に招待し此の慶福を頒つと共に一般有志より記念品を贈り先生の多幸を祈つた。

◎ 補習學校

職員

校長 柏木正續 兼任 壽柳伸一 兼任 松本正員 令 中田充年  
兼任 有浦ツマ 令 後藤ツヤ子 教練指導員 山川篤衛  
令 豊永重之 令 小水壽太郎

3 施設経営の概要

2 生徒數  
男 一一三名 女 四三名 合計 一五六名

セメント二袋  
金貳千円也 補習學校建築費  
青訓五連銃帶刀一組  
置時計 書籍 約貳拾円  
牛舎

松永 英太郎 殿  
山口 庄三郎 殿  
壽柳 伸一 殿  
松永 英太郎 殿  
令 松永 英太郎 殿

- (一) 學校実習地の経営
- イ 水田 三反歩 農會と共同採種圃
  - ロ 畑 山林開墾 八畝歩 普通作及園藝作ノ栽培
  - ハ 茶園 二反歩 小學校兼用 製茶指導圃
  - ニ 温床 二框 早熟栽培指導及生徒ノ研究用
- (二) 部落実習地
- 十二部落共、青年團にて研究用として畑五畝歩以上を経営し相互審査、品評會日等をなす
- (三) 家庭実習地
- 生徒一人五畝歩以上を経営させ 麦作薯蓣、甘藷早熟 等を栽培させ大川學校五年以上の児童……二坪農場の経営……一般に普及させ種子は無償配付した
- (四) 青訓施設
- (イ) 訓練銃 三八式長谷川式 二二、其他二六 計 四七
  - (ロ) 訓練旗 一幟
  - (ハ) 幕的
  - (ニ) 背嚢 一〇、
  - (ホ) 指揮刀 三
  - (ヘ) 信號旗 六

### △産業組合

大地の中核として動搖の絶間ない経済界に臨んで我産業組合が七百五十七

人の組合員の全経済を背負って喋り、活動する雄姿を見ると、血湧き涙出で、心から固き誓言の協同精神の閃きか、自からトトみ出て来る。そこに産業組合と組合員との理解と信頼とが一如となつて、共存同榮の信條の火花が輝くのである。昭和九年中は経済界の客觀的情勢が全面的に常態を失いて自然的災害や養蚕業の不振、且つは思惑心相場の跳躍等々組合の経営も苦心の跡が伺はれた。併し組合員の理解と確固たる目標と勇力……進軍喇叭の行進に依り階段的に昨年より本年へと何上の軌道を歩み續けつゝある

◎貸借対照表

| 貸方      |         | 借方    |         |
|---------|---------|-------|---------|
| 種目      | 金額      | 種目    | 金額      |
| 拂込未済出資金 | 九六二四七〇  | 出資金   | 二六四四〇〇  |
| 貸出金總額   | 一九七、七三九 | 貯金總額  | 一八一、三九七 |
| 預金      | 一六一、五七二 | 借入金總額 | 五四、九一一  |
| 購買品残高   | 三、五七八   | 未拂購買代 | 六〇六     |
| 未収入賣却代  | 二、一六三   |       | 七五〇     |
|         | 七一三     |       |         |

分

|           |          |       |                   |          |      |
|-----------|----------|-------|-------------------|----------|------|
| 有價證券      | 一、二、二四〇  | 九、〇〇〇 | 準備金               | 一四、三四〇   | 一九六  |
| 土地        | 七、二六五    | 三、三五〇 | 聯聯合會掛込<br>未齊出資金   | 三、九一七    | 八九〇  |
| 建物        | 二、〇四九    | 一、一〇〇 | 全購掛止未齊<br>出資見込金   | 二、八六     | 〇〇〇  |
| 什器        | 五、〇〇〇    | 〇〇〇   | 本年度剰余金            | 二、二三二    | 八六七  |
| 聯聯合會出資金   | 一、八〇〇    | 〇〇〇   | 使用人退職給與<br>基金     | 七、〇八     | 〇〇〇  |
| 中央金庫出資金   | 五、〇〇〇    | 〇〇〇   | 聯聯合會掛込未齊<br>出資見込金 | 一六、八六九   | 七三〇  |
| 全購掛出資金    | 六、一五三    | 〇〇〇   | 倉庫換價償却<br>積立金     | 二、八八〇    | 〇〇〇  |
| 未収金       | 二、四〇〇    | 〇〇〇   | 合計                | 三〇、三、五九〇 | 三、四三 |
| 假掛金       | 四、五五九    | 一八九〇  |                   |          |      |
| 假渡金       | 二、六五三    | 一一〇〇  |                   |          |      |
| 取賣品掛<br>其 | 五、四九〇    | 三六〇   |                   |          |      |
| 利用設備      | 三、一一〇    | 九八〇   |                   |          |      |
| 倉庫        | 七、六一四    | 二五〇   |                   |          |      |
| 現金        | 四、六〇九    | 〇八八   |                   |          |      |
| 合計        | 三〇、三、五九〇 | 三、四三八 |                   |          |      |

組合員数 七五七人、 出資員口数 一、三九五口、 一口ノ金額 三十四

保証金總額 二六、四四〇円

◎信用部

全主力を固定、貸付金の回收に注ぎ、信用事業の円滑なる運用に支障なかりむす様に努めた。

◎購買部

肥料及飼料を主として、ありたも更に産業及経済に必要なるもの農業薬品等も取扱つて一般の便益に資した。

肥料の取扱高 八、一四一月一四末

經濟用品取扱高 三、〇九八月七四末

農業薬品 六、〇四七二末

◎販賣部

生産者より消費へと信條の下に公正なる價格に依つて中間商人の搾取を除くため組合員が生産した玄米、裸麦、小麦、粟、大豆、蕨苔、等は、勉めて我組合の手で販賣、轉換して、今では組合の轉換に依つて相場も高値が張られ相互に利得せう、のが莫大なるものである。

玄米 一、四六六、一、三、一九四、〇〇、〇

|    |        |           |
|----|--------|-----------|
| 裸麦 | 二六三俵   | 一、四四六円〇〇  |
| 小麦 | 一〇八袋   | 六一四四一〇    |
| 粟  | 五五俵    | 一八七四〇〇    |
| 大豆 | 二、一〇〇石 | 一、一九七〇円〇〇 |
| 苧苔 | 九〇三袋   | 六、三三二円〇〇  |
| 合計 |        | 三三、七三二円一〇 |

◎利用部

利用機として、麦摺機三台、穀利機一台、大豆粉砕機一台、粉末機一台と備付け、原動機三台として組合員に利用させ、農業能率の増進に努めておる。

◎共同作業場の利用

共同の作業をなし、農村工業の勃興を計るは時代の主流となつて来た。茲に共同作業場の必要が起つて来た所以である。九年に露より相当の助成を戴いて、君浦の埋立に五十坪の平屋建の作業場が五月に完成した。このため各種の方面に利用され、つ、ありて、向の共同出荷場、各種講習講演會場、大衆の娯楽場、網の共同修理等に使用され、年中寧ろ日ない有様である。

◎養蚕會實行組合の活動

(産業組合内併置されてゐる關係上この欄に記入す)

昭和八年の晚秋蚕以来、前價暴落のため、現金収入の大宗たる養蚕も経営上に苦心された。けれども普通農事に比しては、まだ本村としては採算は有利なもので、餘剰労力の分配上にも奨励することに躊躇することはない。

| 桑園及別 | 三四町五天 | 養蚕戸数  |       | 備考 |
|------|-------|-------|-------|----|
|      |       | 春蚕    | 夏秋蚕   |    |
| 區別   | 掃立数量  | 收前額   | 販賣價額  |    |
| 春蚕   | 三七七〇石 | 一七九〇  | 四〇九二円 |    |
| 夏秋蚕  | 四一〇八  | 二四九〇  | 三、四五八 |    |
| 計    | 七、八七八 | 三、二八〇 | 七、六四〇 |    |

永年本村養蚕産業に走られた野口坂手が南高有家村に栄轉された。後任に南高千々岩村より松本坂手が新進の技能を傾倒して、本村養蚕産業に鞭打つて下さることになつた。

△昭和九年の重要日誌 (役場、學校、組合)

|      |                          |
|------|--------------------------|
| 一月一日 | 四方拜 拜賀式 入退官軍人歓迎會 参加者二五七名 |
| 一月一日 | 記 事                      |





366  
542

九 九 九 九 九 八 八  
 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇  
 一 一 一 一 一 一 一  
 二 二 二 二 二 二 二  
 三 三 三 三 三 三 三  
 四 四 四 四 四 四 四  
 五 五 五 五 五 五 五  
 六 六 六 六 六 六 六  
 七 七 七 七 七 七 七  
 八 八 八 八 八 八 八  
 九 九 九 九 九 九 九

對馬 琴打 視察員三名未打  
 此下 檢査  
 第一學期 始業式  
 江川 共一右工門 打 葬并  
 共同購買部 部長會  
 郡内 珠算 競攻會  
 滿州 奉天 三週年 記念式 小学校  
 依座 社 三 主月 年 團 運 身 會  
 郡内 産業 組合 職員 研究 會  
 幸村 二 社  
 志 自 岐 神 社 例 祭  
 天 滿 神 社 例 祭  
 明治 節 拜 賀 式 体 月 一  
 住吉 神 社 例 祭 高 二 男 女 見 童 參 拜  
 山 内 庄 三 郎 氏 敷 出 會  
 白 砂 八 幡 神 社 例 祭  
 八 幡 神 社 例 祭  
 七 郎 神 社 例 祭  
 保護 者 會 長 會 學 藝 會 其 他 二 十 七 節 議  
 歌 傳 藝 年 出 場 石 田 一 等 入 賞  
 本 日 三 日 印 通 幸 神 三 日 切 二 學 藝 會 開 催 三 月 三 日 二 及 一  
 儀 裝 品 評 會  
 皇 太子 殿下 御 降 臨 第一 回 日 中 國 律 場 獨 式 東 方 進 拜  
 第一 學 期 終 了 式  
 役 場 申 用 濟

昭和十年七月二十日發行

發行所  
 長崎縣壹岐郡石田村  
 松永英太郎

發行所  
 長崎縣壹岐郡石田村役場

終